会 報

Pantinas

No. 37

長 崎 日 米 協 会

The Japan-America Society of Nagasaki





平成 29 年度 理事会·通常総会開催



平成 29 年度理事会



平成 29 年度通常総会

2017年(平成29年)8月28日(月)ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルにて、長崎日米協会の平成29年度理事会及び通常総会を開催いたしました。

通常総会には約40名の会員が出席されました。総会の始めに宮脇会長は「今年度も日米両国がこれまで以上に、互いに良きパートナーとして相互信頼を深めることができるような文化交流事業を実施していきたい。」と挨拶されました。その後、平成28年度事業・決算報告及び平成29年度の事業計画・予算案についての審議が行われ、原案通り承認されました。

講演会開催

2017年(平成29年)8月28日(月)長崎日米協会の総会終了後、在福岡米国領事館政治経済担当領事トーマス・ホイットニー氏に「イクメンからワーキングファーザーを可能にする職場環境」と題し、ご講演いただきました。米国と日本の両国におけるそれぞれの男性の育児へのかかわり方を比較しながら、「日本の女性がこれまで以上に日本経済の発展に貢献していくには、男性が育児など家庭での役割をもっと積極的に果たしていくことが必要となるでしょう。」と話されました。



講師のトーマス・ホイットニー領事

長崎日米協会・長崎日英協会合同クリスマス夜会開催



2017年(平成29年)12月6日(水)ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルにて、長崎日米協会・長崎日英協会合同「クリスマス夜会2017」を開催いたしました。

今年で9回目となる本パーティーには、ドミニク・ソー在 福岡米国領事館総務・領事担当領事を始め両協会会員、長 崎在住のALT(英語教師)、CIR(国際交流員)、留学 生、米英関係者など約130名の方々にご参加いただきまし た。また2019年開催ラグビーワールドカップの事前キャ



来賓のドミニク・ソー領事

ンプを長崎で実施する「スコットランドラグビーチーム」コーチングスタッフの皆さんのご参加 もあり、ラグビーワールドカップ日本開催の機運を大いに盛り上げました。また、今回は長崎県 文化観光国際部5名の方々に通訳ボランティアとしてご参加いただいたことで例年以上に皆さん の会話が弾みました。パーティーでは、駐日米国大使館のウィリアム・ハガティ大使から届いた ビデオメッセージ披露、活水女子大学「ブラスクインテット」の演奏、プレゼント抽選会などが 行われ、終始和やかな雰囲気で一足早いクリスマスを楽しみました。



ウィリアム・ハガティ大使



スコットランドラグビーチーム コーチングスタッフ



活水ブラスクインテットの演奏

「石田卓三氏、旭日小綬章受賞記念祝賀会」開催

平成29年11月20日(月)史跡料亭花月にて「石田卓三氏、旭 日小綬章受賞記念祝賀会」が開催されました。

石田氏は、平戸市出身で現在アメリカ合衆国ミネソタ州在住です。今回、在留邦人の福祉向上および日米文化の普及に多大な貢献をしてきたことが認められ、栄誉ある旭日小綬章を叙勲されました。前ミネソタ日米協会会長である石田氏は、長崎からの訪問者のサポートや日米交流活動のサポートなど積極的に行い、セントポール市と長崎市の姉妹都市交流にも尽力されました。当日は、長崎セントポール姉妹都市委員会の皆様を始め、石田氏ゆかりの方々が多く集い、その功績と叙勲を盛大にお祝いしました。



石田卓三氏

「2020年に」

長崎・セントポール姉妹都市委員会 会長 宮西隆幸

2020年に長崎とセントポールの姉妹都市交流は65年を迎えます。65歳定年ということばもありますが、幸い姉妹都市交流に定年はありません。日本では、小学校から英語に触れる機会を与えて、早期に語学力のブラッシュアップを導入することが決まっています。賛否ありますが、現役学生の世代がひとかどの人物になる頃には、その多くが英語を器用に使いこなしているかもしれません。私の知る限りこのような傾



向は、韓国、中国、ベトナム、タイ等の近隣諸国で散見し、すでにエリート教育ではなくなっています。

日本人がどんどん国際社会に出て活躍する機会が増えていますが、語学能力に加えて、自らを表現する力が求められます。この表現力は、社会においても重要な素養で、活躍するためには必須だと思います。積極的な態度と表現が望まれ、このような能力を機会あるごとに磨いていく必要があります。この能力は容易く身につかないかもしれませんが、様々な場面で、家庭においても社会においても、子供や学生がこれらの力を培う機会をどんどん与えていく工夫が求められています。「生きていく力」「表現する力」を育む機会を増やす努力を続けることが重要です。

2017年2月、両市の国公立大学として初めて、長崎大学とメトロポリタン州立大学との間で学術 交流協定が結ばれ、学生交流が始まりました。毎年、セントポールから長崎へ2名、長崎からセント ポールへ2名を派遣して、双方のキャンパスで日米学生が一緒に学ぶ機会を持つことになりました。 学修と同時に自己表現力を伸ばす機会にして欲しいところです。

2018年1月には、セントポール市にある Hamline 大学から学生6名と教職員2名が来崎し、当委員会主催の「核問題と平和:将来あるべき姿」に関する日米姉妹都市学生ディスカッションフォーラムに参加しました。長崎大学、県立シーボルト大学、長崎純心大学、活水女子大学の学生たちとともに被爆実相と核問題の現況に関する講義を聴講し、少人数グループに分かれて「核兵器はなくなるか?」というテーマについて意見を交換し、「世界平和を実現するため自らがどのような貢献ができるか」を考えて発表しました。限られた日程でしたが、両国の学生が主体的に取り組めた意義ある交流となりました。

後日、両委員会主催のセントポール市内の集まりで参加学生による報告会が開催され、交流内容を市民と共有しました。学生が高い意識を持って積極的に話し合ってくれたことは印象的でした。彼らからの「米国民のほとんどが知らない原爆の実相と惨禍について、正しく知る機会を設けることがとても重要だ。」という意見は、「どのようにして被爆体験を継承していくのか」という長崎のテーマでもあると思います。両市間ではこれまで、スポーツ、音楽、ダンス、平和学習等の交流を行ってきましたが、2020年に向かい、今後の交流を担ってくれる世代の人たちが積極的に関われる良いテーマを、長崎日米協会の皆さまの力もお借りして考えていきたいと思います。

第26回 長崎県高校英語スピーチコンテストに後援

2017年(平成 29年)10月7日(土)、長崎県立大村高等学校で 「第26回長崎県高等学校英語スピーチコンテスト」が開催され ました。大会には、県内各地から20名が参加し、第1部(海外 滞在未経験者)と第2部(海外滞在経験者)に分かれて日頃の成 果を発表しました。

【結果】

第1部優勝 山口紗希さん(聖和女子学院高校2年) 第2部優勝 佐藤花和さん(長崎県立諫早高校2年)

【優勝者の感想】

山口紗希さん

「今回のスピーチは、平和がどれだけ大切か、今の日本の生活がどれだけ恵まれているのかを考えてほしいという気持ちを込めました。次は長崎県代表として、より多くの方々に自分の想いを伝えられるように頑張ってまいります。」

佐藤花和さん

「このスピーチコンテストに参加する機会を与えていただい て本当によかったと思います。指導してくださった先生方、 この機会を与えてくださった方々、私の伝えたい気持ちを受 け取ってくださった方々に感謝しています。」





表彰された方々

第5回 活水女子大学エリザベス・ラッセル杯 英語スピーチコンテストに後援

2017年(平成29年)10月14日(土)、活水女子大学東山手キャンパスで「第5回活水女子大学エリザベス・ラッセル杯 英語スピーチコンテスト」が開催されました。『グローバル社会の一員として考える』をテーマに予選を通過した9名が英語スピーチを披露しました。

【審査結果】

- 1位 長谷川舞さん(聖心女子大学文学部英語英文学科2年)
- 2位 藤下 朋さん(活水女子大学文学部英語学科3年)
- 3位 高木結衣さん(活水女子大学文学部英語学科3年)

第1位の長谷川さんは、在日韓国人である自らが差別的な発言 に傷つけられた経験に触れ、積極的に対話し、偏見を捨てて互い に尊重し合う社会を築いてゆきたいとの強い思いを語りました。



優勝した長谷川さん



出場者の皆さんと審査員の先生方

Oh, My America!

私は長崎日米協会に勤める前、10年間ほど旅行の添乗員をしていました。添乗員として色々な国で様々な経験をしてきましたが、その中でも心に残っているのが小中学生と行ったアメリカへのホームステイプログラムです。このプログラムは、通常の「海外旅行」とは違い、子供たちも添乗員の私も現地でそれぞれホームステイをしながら学校に通い、子供たちは英語で授業を受け、私は子供たちの言葉や心のケアを行うというものでした。初めて親元を離れホームシックになったり、アメリカの食事が合わない生徒もいましたが、3日もすれば全員が仲良くなり助け合い、まるでひとつの家族のようになっていきました。



ホストファミリーと一緒に

学校でのランチタイムは毎日隣にあるマクドナルドに行きました。

はじめは英語で注文すらできずに戸惑っていた生徒たちですが、数日経つと「マクドナルドはもう飽きたよ。 一人で注文できるようになったから違うものが食べたい!」と言うようになりました。

そこで担任の先生と相談して最終日に近所の大きなショッピングモールのフードコートに連れて行くことにしました。そこは中華料理やイタリアンなどたくさんの飲食店があり選び放題です。子供たちは「ハンバーガー以外が食べられる!」と大喜びで、一斉に思い思いの店に走って行きました。みんなが何を買ってくるのか楽しみに待っていると、戻ってきた生徒たちが手にしていたのは、なんとハンバーガー。「どうしてまたハンバーガーなの?」と尋ねると「だって、ハンバーガー以外どう言えばいいのかわからなかったんだもん。」との事。ちょっぴり恥ずかしそうにしている生徒たちを見て、先生と私は顔を見合わせ苦笑いでした。

また、私にも思い出深い出来事がありました。ホストマザーと近所のスターバックスコーヒーに行った時、「カオリ、日本茶があるわよ!一緒に飲みましょう」と、緑茶と一緒に砂糖とミルクを渡されました。「なぜ砂糖とミルクがついてくるの?」と不思議に思っていると彼女は、既にたっぷりの砂糖とミルクが入った緑茶を一口飲み、満面の笑みで「VERY GOOD!」あまりにも美味しそうに飲んでいたので、その場では何も言葉が出ませんでした。「あの時、日本茶の正しい飲み方を教えてあげればよかったなぁ…」と今でも少し後悔しています。

あっという間に楽しい2週間が過ぎ、ホームステイ最後の夜、ホストファザーとホストマザーから呼ばれ「この家はあなたのアメリカの家よ。いつでも帰っておいで!」と、家の合鍵をプレゼントされました。 2人の優しさに触れ、私は思わず涙してしまいました。その鍵は今でも私の大切な宝物です。いつか「ただいま!」とアメリカの家へ帰る日を楽しみにしています。

添乗員という仕事を通してたくさんの貴重な体験と素晴らしい思い出ができ、心の宝物となっています。 あれから 15 年ほど経ち、現在は長崎日米協会の事務局で働いています。この様な形で長崎とアメリカを結 ぶ仕事に就くことになるとは、あの頃は想像もしていませんでした。これからも、大好きなアメリカとの懸 け橋になれる様、より一層精進していきたいと思っています。

こんにちは「長崎市文化観光部国際課」国際変流員 ネーサン・グレーブス(Nathan Graves)です!

プロフィール

私はアメリカのケンタッキー州にある小さな町に生まれました。小さいころ楽しんでいたテレビゲームが 日本で作られたことを知り、中学生時代後半に日本語と日本の文化について勉強するようになりました。高 校生の頃、学校で日本語の授業を受けられるようになり、将来日本語を使った仕事をしたいと思い、その後、 地元の大学でも日本語を専攻しました。



仕事に関して

国際交流員という仕事を始める前は、時々知り合いや日本語の先生に頼まれて翻訳や日本語の勉強の手伝いなどをしていましたが、今回の仕事程きちんとしたものではなかったため、今の仕事を通して色々と勉強になりました。長崎に来て、一般的な翻訳の仕事では関わることのできない仕事がいくつもありました。専門用語の知識が必要なものもあったため、そのような仕事にどんな準備や勉強が必要になるのかを学ぶことができました。通訳についても難しいと思ったものもありましたが、今となってはすべてがいい経験だったと思っています。どの仕事も重要で、日本とアメリカや他の外国を繋ぐにはどうすればいいのかを教えられま

した。

今後の予定

未だ確定はしていませんが、翻訳に関する仕事を続けたいと思っていますし、 日本に興味を持つ人を増やす仕事ができればと考えています。しかし、実家の 近くにそういった仕事が少ないのも事実です。アメリカに帰ってから、しばら くは短期間出来る仕事をこなしながら本格的に仕事を探すことになると思いま すが、長崎で学んだことを次の仕事や今後の人生に活かしたいと思います。



会員募集中!

長崎日米協会では新規会員を募集中です。会員の皆さまのお知り合いの方をぜひご紹介下さい。

会 費

個人会員 年会費 2,000円 法人会員 年会費 10,000円

編集後記

○ 日本人のアメリカ合衆国への移民は、明治維新(1868年)とともに始まり、今年で150周年を迎えました。150年も前、異国の地で様々な困難を克服しながらハワイの発展に貢献し、日米両国の友好と 親善の礎を築いてきた日本人移住者一世、二世の方々に遠く思いを馳せています。現在ハワイでは、日系移民150周年を祝う様々なイベントが開催されています。この機会にぜひハワイを訪れてみてはいかがでしょうか。

長崎日米協会事務局

〒850-8618 長崎市銅座町 1 番 11 号 十八銀行本店 TEL 095-828-8859 FAX 095-821-0214〈 事務局:高橋・島田 〉